



肥料以外の未開発分野へ進出

～年頭のご挨拶に代えて～

チッソ旭肥料株式会社
取締役・兼第一販売部長

柴 田 観

明けましておめでとうございます。年頭に当り皆様方のご多幸をお祈りするとともに、一言ご挨拶を申し上げます。

旧年は石油ショックの後遺症に悩まされ続けた一年でしたが、本年は明るい年であって欲しいものと念じております。

しかしながら世界をまき込んだ資源ナショナリズムの嵐は予想外に強く、石油のみならず、燐鉱石、加里鉱等あらゆる分野に波及し、未曾有の不況を招来しております。しかもなお、本年早々に原料鉱の再値上げが一方向的に決定されるなど、依然として厳しい状態が続くことが予想されます。

一方、昨年11月、ローマで開かれた世界食糧会議(国連主催)の席上では、食糧危機が論議され、わが国においても、改めて、食糧自給率の向上が叫ばれるようになりました。(ご参考までに各国の穀物自給率の推移を申し述べますと別図の通りで、日本は年々低下の一路を辿っております。)

つい2年ほど前までは、日本は何と言っても貿易立国、工業製品を輸出して、それで稼いだ外貨で農作物を買えばよい、と説く国際分業論が唱えられておりましたが、昨年後半からの世界的な需給逼迫を転機に、価値観が一変し、主な穀物などに対し生産奨励の措置がとられるようになりました。私共農業に携っている者として、農業や食糧に対する評価が高まったことは誠に慶びにたえない次第でございます。

斯かる情勢下におきまして、チッソ旭肥料(株)は、日本農業の皆様のため、肥料の安定供給の責任を果すべく、懸命の努力を致して参りました。その間、銘柄整理、価格アップ等種々ご迷惑をお掛けした点、深くお詫び申し上げますが、昨年の体験を謙虚に反省し、今後は次のような点に努力して参りたいと存じております。

すなわち、既存部門におきましては、生産および物流の合理化に最大の努力を払い、肥料の安定、低廉供給をはかります。既に肥料荷役につきましては、昨年来、度々のテストを行い、機械化の自信がつかましたので、本年は更に進めて、皆様方のお手伝いをしたいと思っております。

また、新規部門と致しましては、省資源につながる効率の良い肥料や、資源再利用による肥料化商品等を皆様方にお届けして、ご検討をお願いしたいと思っております。

以上は、肥料を中心とした商品に対する考え方でございますが、農業全般の動向を展望致しました結果本年から農業資材分野をも手掛けてみたいと思っております。

ご承知の通り、私共チッソ旭肥料(株)は、親会社であるチッソおよび旭化成工業の中に、プラスチックを初め、幾多の農業用の有用資材があり、これ等を開発して、栽培のお手伝いをしたいと思っております。

この最初の商品と致しまして、昨年暮より、「クミアイ・カシミロン寒冷紗」をとり上げ、系統を通じ皆様方にお願に上っております次第です。私共、農業資材に関しましては、全くの一年生でございますので皆様方のご指導を切にお願い申し上げます。

今後更に、他にもいろいろ開発したいと思っておりますので、何卒、肥料同様、よろしくご愛顧を賜わりますようお願い致しまして、新年のご挨拶と致します。

穀物自給率の推移

(100%を越えるのは、輸出があるため)

